

保育所保母の

実態について (2)

日本福祉大学 久世 妙子

〔IV〕生活態度、児童観

(1) 保母としてどんな心構えが必要か 表1の十の生活態度に順位をつけさせたところ、この表のような順位になった。

(2) 児童にとって大切な事柄 一対比較法により五つの事柄を比較させたところ、2表の結果を得た。

(3) 具体的場面における保育方法 三つの具体的場면을提示し、各

1表 順位づけ法でみた保母の生活態度

生活にとって大切な事柄	順位
健康	1
園児への愛情	2
社会人としての自覚責任	3
経済的安定	4
研究生活	5
他人とうまくやってゆくこと	6
私生活を大切にすること	7
宗教	8
趣味けいこごと	9
社会的地位をうること	10

2表 一対比較法でみた児童観

児童にとって大切な事柄	順位
健康であること	1
誰からも愛されるような子になること	2
社会性を養うこと	3
個性をのばす	4
知識を教えること	5

々の場合、どんな保育方法をとるかを調べた。結果は、場面の種類によってとられる方法が異なること。年長の保母ほど児童中心の方法をとる傾向が大であることがわかった。

(5) 保母さんの社会的地位を高めるには、今どういうことをしたらよいか 全体の三六、五%が第一に保母の資質を向上させることであるといっており、研究会や講習会を開くことを希望している。

〔V〕人間関係 職場内の人間関係では、園長との関係が一番悪く、次が小使さんとの関係であった。「父兄との関係」、「自分の家族との関係」、「役所との関係」では、相手の保育所や保母の職務に対する無理解さからくる問題が指摘されている。

〔VI〕保育上の悩み 日常の保育で困っている問題は、第一に問題児の取扱い方、第二に設備備品の不備があげられた。

〔VII〕恋愛、結婚 保母の恋愛、結婚についての悩みを三つの側面から調査した結果、共通して出てきたのは、勤務時間が長いことと労働過重が原因となっているものであった。未婚者には、異性との交際の機会のないことを指摘したものが二七、七%あった。

保育所における友人関係について

広島・宮之原保育所 川根 京子

第一次テスト

一、研究期日 昭和三十二年六月

二、研究対象 男子二十名 女子三十四名

三、研究方法 ソシオメトリック・テスト

四、実施方法 面接法と行動観察

五、調査の処理

(1) ソシオメトリックス

(2) アトムソシオグラム

(3) ソシオグラム（性別、地理的要因、知能）

六、結果の要約

(1) インフォーマルな四大グループに分離しフォーマルなグループが点在している。

(2) 遊びのグループは同性のものを求めて成立している。

(3) フォーマルなグループの方が地理的結合が大である。

(4) 活動的行動に積極的な関心を示しあまり知能に関係ない。

(5) 女子は同程度の知能の仲間が結合し想像的、演劇的な遊びを好む。

(6) 個人及び集団から排斥されている児童は同一人であると判明する。

第二次テスト

研究期日 昭和三十三年一月

研究対象 方法、調査の処理は第一次テストと同様

結果の要約

(1) グループの大きさは男子の場合、社会的意識が発達すると構成人員が多くなり、集団的行動が盛んになる。

(2) 幼児期のグループは離合集散がげしく持続性がない。

(3) 幼児期には真の「好きな友人関係」は成立しない。

結果の活用

(1) 中核的勢力のある児童をリーダーとして扱う。
(2) フォーマルグループに集団参加の機会を与える。
(3) 嫌悪されている児童には自己の特性をみつけ社会的認容を受けさせ、所属欲をみたせてやる。

家族成員の地位と役割の

時代的变化について

愛育研究所 高橋種昭

わが國の家族は、敗戦を機に、従来の家父長制に基く「家」の崩壊と共に、大きな変化を示し、その内部における親子関係、夫婦関係においても、従来の上下関係による支配隷従の関係から、成員相互間の信頼と尊敬による親和的關係の方向に新しい動きを示している。このような変化は、家族を構成する家族成員個々の家族内において占めるべき地位、果すべき役割の変化をも当然に伴い、ある成員の従来認められていた地位は他の成員によって否定され、ある成員が果さねばならぬと考えている役割は他の成員から無用視されるというような無秩序と多くの混乱が現在においては存在している。

家族関係が、児童の性格形成に重大な影響を与えるものであり、父親・母親の態度、行為を通じて自己の属する社会の価値体系を想像し、役割体系を自己のものとし、社会的性格というものを獲得するものであることを考えれば、現在のような時代と混乱は莫大なる